

ミックスジュース

学級通信

鯉沢中

3年生

2018年5月7日

No. 6

四連休はいかがでしたか？



道徳「リンゴの何を食べるのか」



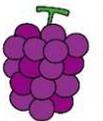
今回の読み物について

「あなたりんごの何を食べますか？」と問われて何と答えますか。今回の読み物には次のようなことが書いてあります。

「りんごを食べるとき、信州や青森の、冬の雪や春の花、夏の太陽の照り返し、秋口の雨や風、そういうものを、その一つのりんごに味わうのが、ほんとうの食べ方だ。」これを読んでハッとさせられた人もいたのではないのでしょうか。

少し前のものですが「ALWAYS 三丁目の夕日」という映画がありました。昭和30年代始めの日本は、いまの世の中から考えると想像できないくらい物質的に貧しかったのです。しかし、何かが足りないなど考える人はあまりいませんでした。物量の大小だけで、ぜいたくさや豊かさがきまるわけではないという証拠なのかもしれません。

読み物の中の「いやしいぜいたくもあるし、美しいぜいたくもある。冷たいケチもあるし、温かい倹約もある。」をかみしめて生きていきたいと思います。



本当の意味での「ぜいたく」とは何ですか？(一部ですが、みんなの考えを紹介します…)

- ☪ 「ぜいたく」とは、自分が中心になる欲ではなく、みんなが中心になる欲なのかなと思った。むずかしい。
- ☪ お金で買えないものが周りにあふれていることではないかなと思った。自分勝手、自己中心的な考え方ではなく、自然を感じる心や、思いやり・感謝などの温かい気持ちをもって過ごすことが大切だと思った。
- ☪ 貧しくても、豊かでも一人だったらケンカすることもできない。笑い合うこともできない。でも、今はケンカしたり、笑い合えたりする仲間がいる。そういうお金で買えないものが「ぜいたく」だと思う。
- ☪ 生きていることもぜいたくで、星がきれいだと思うのもぜいたくで、食べることもぜいたく。思い返してみれば、ぜいたくは身近なところにあると思った。ただ、それに気づくか、気づかないかだけだと思う。ありがたみを感じて生きていきたい。
- ☪ 本当の意味での「ぜいたく」は、みんなと一緒にいられることだと思う。友だちと笑ったり、泣いたり、親に怒られたり、ほめられたりすることが一番の「ぜいたく」だった。
- ☪ 私たち現在人にとって「季節を楽しむ」ことや「物のありがたみ」が年々薄くなっている気がする(自分も含めて)。だから、「今」の私たちのぜいたくは、それを思い出して意識することだと思う。